

校長	教頭	教頭

科目名	世界史A		教科名	地理歴史
学年	1年	単位数	2単位	担当者氏名

1 科目「世界史A」について

学習の到達目標	1. 近・現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解する。 2. 人類が直面する課題を政治・経済・社会・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を養う。 3. 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。
使用教科書	帝国書院「明解世界史A」（世A-314）

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・世界の歴史的枠組みとその形成過程に関心をもっている。 ・世界の歴史について主体的に学ぶ姿勢を身につけ、意欲的に探求している。	・近現代を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連づけて多角的・多面的に考察することができ、その意義を理解している。	・教科書や副教材、プリントなどの資料から適切な情報を読みとり、効果的かつ客観的に活用できる。 ・世界史に関する知識、自己の考えなどを表現できる	・近現代を中心とする世界の歴史に関する基本的な事項を把握し、理解している。
・学習活動への参加の態度 ・作業プリント・提出物 ・定期考査	・作業プリント ・定期考査	・作業プリント ・定期考査	・作業プリント ・提出物 ・定期考査

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定する。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※ 各学期及び学年は、次の「学習計画及び評価方法」で記載する。

学 期	学 習 内 容	配 当 時 間	月	考 査 範 囲	学 習 の ね ら い ・ 目 標 ・ (評 価 の 観 点)	備 考 (学 習 活 動 の 特 記 事 項 、 他 教 科 ・ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 ・ 特 別 活 動 と の 関 連 な ど)
1 学 期	オリエンテーション 教科担任及び生徒の自己紹介 授業や評価方法についての紹介	1	4 月	中 間 考 査	歴史に対する興味関心や学ぶことの大切さを意識させる。	第1部に関しては、「地理A」や「地理B」で学習する世界の諸地域の内容との関連に留意する。 各宗教については、「現代社会」や「倫理」で学習する内容との関連に留意する。
	第1部 世界の一体化と日本	2	5 月		人類の起源を理解させ、農耕・牧畜について人類史におけるその意義を考察させる。(関)	
	1章 前近代の諸文明				7	
	序節 人類のはじまり	2	2		インドを中心とした南アジア世界が、宗教と社会制度を共通の基盤として一つの地域世界を形作ったことを把握させる。(関・技)	
	1 地球上に現れた人類と文明				2	
	1節 東アジアの文明	2	2		エジプト文明やメソポタミア文明から、イスラームの成立とその拡大によって成立したイスラーム世界の各王朝についての歴史展開を理解させる。(関・技)	
	1 中国に生まれる統一国家 —中国文明の成立				2	
2 草原をかける遊牧民 —東アジアのもう一つの勢力	5	6 月	大航海時代以前の南北アメリカ大陸での、マヤ文明、アステカ文明、インカ文明について歴史概観を確認させる。(関・技)			
3 東アジアの国際的な大王朝			1	7 月	ユーラシア大陸における交流圏を国際交易や文化交流に視点をおきながら理解させる。(関・思・技・知)	
4 諸民族によって統治された 時代	2	7 月				
2節 南アジアの文明			1	1		
1 数々の宗教が成立した南アジア						
3節 東南アジア						
1 外来文化を吸収した東南アジア						
4節 西アジア・北アフリカの文明						
1 オリエン트의古代文明						
2 イスラームの誕生と広がり						
3 イスラームの栄光と分裂						
5節 ヨーロッパの文明						
1 ヨーロッパ文明の源流						
2 キリスト教と東西に分かれるヨーロッパ						
3 教皇の強大な権力と十字軍遠征						
4 ヨーロッパにおけるまちとくにの発達						
6節 南北アメリカの文明						
1 独自の文明を築きあげた南北アメリカ						
7節 ユーラシアの交流圏						
1 ユーラシアを結ぶ陸の道・海の道						
【課題・提出物等】 授業プリント・課題プリントなど提出物について						
【第1学期の評価方法】 考査評価、課題追求学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価 未履修懸念者の評価は評価保留とし、評価を「0」とする						

2 学 期	2章 一体化に向かう世界	4	9 月	中 間 考 査	モンゴル帝国解体後に成立したアジア各地域における諸王朝について、その歴史概観を理解させる。(関・技)	近・現代史は内容が過密になりがちなので、指導計画を作成する上では、基本的なもの、本質的なものを精選し、重点化するようにする。
	1節 繁栄するアジア 1 モンゴル帝国のあとに興った諸大国 2 イスラーム諸王朝の繁栄 3 明の繁栄ー 返り咲いた漢人王朝 4 清の繁栄ー 中国全土に広がる辮髪 5 交易で結びつく東アジア諸国 2節 大航海時代と新たな国家の形成 1 ヨーロッパで花開く個性と自由 2 大航海時代の始まり 3 ヨーロッパの新しい国際関係 4 イギリス革命とフランスの絶対王政 5 中央・東ヨーロッパ諸国の改革とロシアの拡大 6 アジア・アメリカに進出するヨーロッパ				3	
	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺	6	1 0 月	期 末 考 査	ウィーン体制の動揺と崩壊から自由主義運動、国民国家の発展に至る過程を理解させる。 ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の進展と国民国家の形成過程について理解を深めさせる。(関・技)	産業革命や市民革命については、中学校社会科の学習内容や高等学校での公民科などとの関連に留意する。
	1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 1 イギリスから独立するアメリカ 2 ヨーロッパ近代化の出発点 フランス革命 3 ナポレオンのヨーロッパ支配からウィーン体制へ 4 フランス革命と社会生活の変化 5 大西洋を越えて広がる革命の波 6 産業革命という大変革の開始 7 資本主義の発達と社会主義運動の発生				1	
	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 1 1848ー19世紀の転換点 2 “世界の工場” イギリス 3 フランス第二帝政とイタリア・ドイツの統一 4 ロシアの改革と東方問題 5 南北戦争と戦後の発展 6 科学の世紀 ー19世紀の文化と第2次産業革命	4	1 1 月			ヨーロッパ諸国による植民地化や従属化の過程をあつかう際のアジア諸国の抵抗、近代化への動き、民族意識の形成については、ヨーロッパの進出に対する受動的な対応だけではなく、社会変革へのアジアの主体的な動きにも着目させるようにする。
	3節 アジア諸国の動揺 1 オスマン帝国の弱体化 2 侵略に抵抗するイスラーム諸国 3 ムガル帝国の崩壊とインド 大反乱 4 東南アジアの植民地化	4	1 2 月	学 年 末 考 査		
	4節 東アジアの大変動 1 中国と日本の開国 2 アジアにおける工業化と日清戦争 3 東アジアをめぐる国際関係 4 孫文が導いた辛亥革命	4	1 2 月	学 年 末 考 査		
	2部 地球社会と日本	3				
	1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成 1 大衆社会の出現 2 世界の分割を進めた帝国主義 3 世界の一体化と人口移動					
	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦	2				
【課題・提出物等】 1学期に準ずる						

【第2学期の評価方法】 1学期に準ずる							
3 学 期	3 ロシア革命と民族の問題 4 ウィルソンとヴェルサイユ体制 5 第一次世界大戦後の列強	3	1 月 年 末 考 査	イ ン ド の 民 族 運 動 に つ い て そ の 経 過 と 結 果 を 理 解 さ せ る。 朝 鮮 で の 三 ・ 一 運 動 や 中 国 で の 五 ・ 四 運 動 な ど 抗 日 運 動 に つ い て 理 解 さ せ る。 (関・思)	歴 史 的 な 文 献 資 料 以 外 に も 、 新 聞 、 雑 誌 、 パ ン フ レ ッ ト 、 生 活 用 具 な ど 歴 史 を 具 体 的 に と ら え る こ の で き る 資 料 や 、 写 真 、 映 画 、 ビ デ オ な ど の 視 覚 教 材 を 適 切 に 授 業 で 生 か す よ う に す る。		
	4 節 経済危機から第二次世界大戦へ 1 世界恐慌とローズヴェルト 2 ファシズムの台頭 —ムッソリーニとヒトラー— 3 経済不況から日中戦争へ 4 ヒトラーの要求と第二次世界大戦 5 被害の拡大と戦争の終わり	4				2 月	ア メ リ カ か ら 始 ま っ た 世 界 恐 慌 が 、 国 際 秩 序 に 危 機 を も た ら し 、 フ ア シ ズ ム の 台 頭 に よ る 国 際 対 立 か ら 第 二 次 世 界 大 戦 に 至 っ た 歴 史 展 開 を 、 日 本 の 状 況 を ふ ま え な が ら 理 解 さ せ る。 (関・思・技・知)
	2 章 冷戦から地球社会へ 1 節 冷たい戦争の時代 1 新たな対立と協調の模索 2 対立する二つの陣営	2				第 二 次 世 界 大 戦 後 に お け る 米 ソ を 中 心 と し た 東 西 冷 戦 体 制 の 構 築 過 程 を 理 解 さ せ る。 (関・思・技・知) ア ジ ア ・ ア フ リ カ 諸 国 に お け る 独 立 運 動 や 地 域 紛 争 、 そ し て 平 和 共 存 へ の 模 索 と 多 極 化 す る 国 際 社 会 を 通 し て 、 冷 戦 期 の 世 界 の 動 向 を 理 解 さ せ る。 (関・思・技・知)	核 兵 器 の 脅 威 に 関 す る 認 識 、 あ る い は 戦 争 を 防 止 し 民 主 的 で 平 和 な 国 際 社 会 を 実 現 し よ う と す る 意 識 な ど を 育 成 す る た め に 、 教 師 が 一 方 的 に 教 え 込 む の で は な く 、 生 徒 自 身 に 課 題 を 選 択 さ せ て 調 べ さ せ た り 、 成 果 を 発 表 し 、 学 級 全 体 で 討 論 し た り す る 場 面 を 設 定 す る よ う に す る。
	3 ア ジ ア の 独 立 と 経 済 発 展 へ の 道 4 第 三 勢 力 の 形 成 と 南 北 問 題 5 中 東 戦 争 と イ ス ラ ム 復 興 6 ア メ リ カ ・ ソ 連 の 緊 張 と 緩 和 2 節 冷戦終結への道のり 1 ゆらぐアメリカと先進各国の変化 2 経済発展に取り組むアジア諸国 3 冷戦の終結と変わる世界構造 3 節 地球社会への歩み 1 グローバル化する社会と経済 2 超大国アメリカと中東情勢 3 日本を取り巻くアジアの動き 4 地球的課題と解決への努力 4 節 持続可能な世界をめざして 世界史の学習をふり返って 1 人間の権利と自由の保障 事例1 フランスからの送還されるロマの人々 2 対立から異文化との共生へ 事例2 よみがえる伝統工芸“ノクシカタ” 3 環境保全の必要性 事例3 ビョートル大帝の夢と枯渇する 大アラル海 4 共に生きる世界を築くために	2 2 2 1				3 月	第 二 次 世 界 大 戦 後 に お け る 国 際 紛 争 や 核 兵 器 問 題 、 人 種 ・ 民 族 問 題 な ど 、 国 際 社 会 が 抱 え る 諸 問 題 を 歴 史 的 観 点 か ら 追 究 さ せ 、 国 際 協 調 の 意 義 と 課 題 を 考 察 さ せ る。 科 学 技 術 の 発 展 に よ る 現 代 文 明 の 課 題 を 考 察 さ せ る。 (関・思・技・知)
【課題・提出物等】 1学期に準ずる							
【第3学期の評価方法】 1学期に準ずる							
【年間の学習状況の評価方法】 考査評価、課題追究学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価							

平成29年度 地理歴史科「日本史A」シラバス

校長	教頭	教頭

科目名	日本史A		教科名	地理歴史
学年	2年	単位数	2単位	担当者氏名
				印

1 学習の到達目標

学習の到達目標	近・現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
使用教科書・副教材等	第一学習社312「高等学校 改訂版 日本史A」

2 学習計画に関する指導順序と選択指導について

各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序	各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、取扱について適切な工夫を加えるものとする。
学習指導要領で示されている内容を適切に選択して指導する場合の配慮事項	学校においては、必要がある場合には、「教育課程の基準」及び「教育課程の編成及び実施」に示す教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど内容を適切に選択して指導することができる。

3 科目全体の評価の観点趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見出し、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。
・学習活動への参加の態度 ・作業プリント ・提出物 ・定期考査	・作業プリント ・定期考査 ・提出物	・作業プリント ・定期考査 ・提出物	・作業プリント ・定期考査 ・提出物

4 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

5 各学期及び学年の評価方法

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※考査評価、課題追求学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価を行う。

※1・2学期の未履修懸念者の評価は評価保留とし、評価を「0」とする。

6 学習指導計画及び評価方法等

学 期	学 習 内 容	配 当 時 間	月	考 査 範 囲	学 習 の ね ら い ・ 目 標 ・ (評 価 の 観 点)	備 考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など)
第 1 学 期	オリエンテーション 教科担任及び生徒の自己紹介 授業や評価方法についての紹介	1	4 月	中 間 考 査	歴史に対する興味関心や学ぶことの大切さを意識させる。	第1章に関しては、「世界史A」で学習する世界の諸地域の内容との関連に留意する。
	第1章 近代国家の形成と国際関係の推移				・江戸時代の鎖国下での日本の対外関係について理解する。	
	第1節 近代への胎動				・近世後半の産業、教育や学問・思想などの発展について理解し、さらに、これらが近代文化の基盤となったことを理解する。	
	①せまってくる外国船	1				
	②ちからを蓄える庶民	1				
	③近代思想のいぶき	1				
	④揺らぐ幕藩体制	1				
	第2節 開国と幕末の動乱				・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。	
	①黒船がやってきた	1	5 月		・開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。	
	②志士たちの時代	1			・廃藩置県や封建的身分制度の撤廃など、明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。	
③手を結ぶ薩長	1		・幕末から明治初期の欧米への使節・留学生の派遣、外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。			
④近代との出会い	1		・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。			
⑤江戸幕府が終わり新政府へ	1		・初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正、一方、アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。			
第3節 近代国家の形成			・この時期に、日本の領土が国際的に確定したことも理解する。			
①江戸が東京になった	1	5 月	期 末 考 査	第2節・第3節に関しては政治分野との関連に留意する。		
②天皇の軍隊がつけられた	1					
③スローガンは「富国強兵」	1					
④欧米文化がはいってきた	1	6 月				
⑤日本の国境が定まった	1					
⑥爆発する農民や士族の不満	1					
⑦国会開設が決まった	1					
⑧地主制が進行した	1					
⑨立憲政治がはじまった	1					
⑩国会がはじめて開かれた	1					
第4節 国際関係の推移と近代産業の発展			7 月			
①欧米と肩を並べる国をめざして	1					
②清国との対立が深まった	1					
③藩閥と政党が接近した	1					
④ロシアとの戦争がおこった	1					
⑤アジアへの勢力拡大がはじまる	1					
【課題・提出物等】 ワークノート、課題プリントなど提出物について						
【第1学期の評価方法】 考查評価、課題追求学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価 未履修懸念者の評価は評価保留とし、評価を「0」とする。						

第2学期	⑥国民の生活が圧迫された	1	9	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・明治前半では、条約改正が最大の外交課題であり、この克服においては、国際情勢と国内情勢の推移が密接に関係し、進められたことを理解する。 ・日清・日露戦争のおこった原因と、その結果について理解する。 ・日清・日露戦争を経て、アジア諸国に対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。 ・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおり、資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。 ・国民統制において、教育政策や国家主義的思想の果たした役割について理解する。 ・明治後半から大正期の国内政治については、政党政治の成立と、その背景にあったデモクラシーの風潮の高まりについて理解する。 ・第一次世界大戦が、日本に与えた経済的な影響について理解する。 ・大正期には、第一次世界大戦を通して世界的な民主主義の風潮が高まり、さらに資本主義の発展にともなう産業構造の変化を背景として、さまざまな社会運動が活発になったことを理解する。 ・経済の発展や教育の普及などにともなって、大衆文化が形成されたことを理解する。 	近・現代史は内容が過密になりがちなので、指導計画を作成する上では、基本的なもの、本質的なものを精選し、重点化するようにする。	
	⑦綿糸と生糸が支えた産業革命	1	月				
	⑧欧米の資本主義に仲間入りした	1					
	⑨貧富の差が広がった	1					
	⑩国家主義が台頭する	1					
	⑪教育が進化した	1					
	⑫明治の文化が開花した	1					
	第2章 両大戦をめぐる国際情勢						
	第1節 第一次世界大戦と日本						
	①民衆が政治を動かした	1					
	②最初の世界大戦に日本も参戦した	2	10				
	③成金の時代がやってきた	1	月				
	④朝鮮・中国の民衆が立ち上がった	1					
⑤日本は欧米に歩調をあわせた	1						
⑥「平民宰相」が登場した	1						
⑦抑圧からの解放をもとめて	1						
⑧新しい文化とモダンな都市が生まれた	1						
⑨学問と芸術に新風が吹く	1						
第2節 第二次世界大戦と日本							
①恐慌の嵐が吹き荒れる	1	1					
②日本の外交が行き詰まる	1	1					
③軍部の暴走がはじまった	1	月					
④中国との長い戦いがはじまった	2	末					
⑤戦争の影が文化におよぶ	1	考					
⑥すべてが戦争に協力させられた	1						
⑦アメリカとの戦争がはじまった	1	査					
⑧戦争が拡大する	2	1					
⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった	1	2					
⑩生活も戦争に染まった	1	月					
⑪戦争が終わった	1						
【課題・提出物等】 1学期に準ずる							
【第2学期の評価方法】 1学期に準ずる							
第二次世界大戦については中学校社会科の学習内容との関連に留意する。							

第 3 学 期	第3章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発 ① 占領軍がやってきた ② 日本が生まれかわる ③ 新しい国のしくみ ④ 飢えとのたたかい ⑤ 飢えのなかでも解放感があった ⑥ 民主化から経済復興へ ⑦ 復興への転機到来 ⑧ 複雑な環境のなかでの独立	1 1 1 1 1 1 1 1	1 月 学 年 末 2 月 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の諸改革の内容について理解する。 ・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。 ・日本の経済復興の過程を理解する。 ・戦後の深刻な国民生活の実態について理解する。 ・アメリカ文化の流入が国民生活に与えた影響について理解する。 ・国際的な冷戦のはじまりと、日本に対する占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約の締結に至る経緯と背景について、理解する。 	歴史的な文献資料以外にも、新聞、雑誌、パンフレット、生活用具など歴史を具体的にとらえることのできる資料や、写真、映画、ビデオなどの視覚教材を適切に授業で生かすようにする。
	第2節 独立後の政治と経済の発展 ① 平和への願いが叫ばれた ② 保守と革新の正面衝突 ③ 奇跡の経済成長がはじまった ④ 奇跡の経済成長の影 ⑤ あらたな戦争にまきこまれた ⑥ 豊かさの中流意識	1 1 1 1		<ul style="list-style-type: none"> ・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と、新しい外交関係の確立の動きについて理解する。 ・高度経済成長の実態と、その歴史的意義について理解する。 ・高度経済成長期において、科学技術の発達、産業構造の変化、消費の拡大など、これを機におきた変化の内容について理解する。 ・高度経済成長期には、経済発展の一方で、都市化、農山漁村の過疎化、公害の発生など、さまざまな社会問題が表面化したことを理解する。 	核兵器の脅威に関する認識、あるいは戦争を防止し民主的で平和な国際社会を実現しようとする意識などを育成するために、教師が一方的に教え込むのではなく、生徒自身に課題を選択させて調べさせたり、成果を発表し、学級全体で議論したりする場面を設定するようにする。
	第3節 現代の日本と世界 ① 2つのショック ② 経済大国が誕生した ③ 消費はファッションになった ④ バブルはこうしてふくらんだ ⑤ 大きな歴史の転換をむかえた ⑥ 政局と経済が混迷する ⑦ これからの日本について考えよう ⑧ 時代の転換点に立って	1 1 1 1 1	3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・石油危機にともなう日本国内の動きを、国際情勢の動向をふまえて、理解する。 ・国際的な冷戦の終結後の世界情勢と、国内的な55年体制の崩壊について、理解する。 ・現在の日本がかかえる諸課題について、国際社会での役割、国内的な問題という面から理解する。 	
【課題・提出物等】 1学期に準ずる					
【第3学期の評価方法】 1学期に準ずる					
【年間の学習状況の評価方法】 考査評価、課題追究学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価					

校長	教頭	教頭

科目名	地理A		教科名	地理歴史
学年	2年	単位数	2単位	担当者氏名

1 科目「地理A」について

学習の到達目標	1. 現代世界の地理的な諸課題を地域性をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 2. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	第一学習社「高等学校地理A」(地A 310)、帝国書院「新詳高等地図」(地図-310)

2 科目全体の評価の観点の趣旨

評価の観点			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだすとともに地域性を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けるとともに、追究した過程や結果を適切に表現する。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の態度 作業プリント 提出物 プレゼンテーション 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 作業プリント 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 作業プリント 定期考査 プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 作業プリント 定期考査 提出物

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで掲載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※考査評価、課題追求学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価を行う。

※1・2学期の未履修懸念者の評価は評価保留とし、評価を「0」とする。

5 学習計画

週	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1 学 期	4 月	第1編 現代世界の特色 と諸課題の地理的考察 1章 地球儀や地図でと らえる現代世界 ①球面で世界を考えよう ②世界地図の特徴を知ろ う ③世界観の広がりや地図 ④国家の領域と領土問題 ⑤国家をこえた結びつき ⑥交通機関の発達と縮小 する地球世界 ⑦情報・通信で一体化す る世界 ⑧人・「もの」・資本で結 びつく世界	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化が急速に進んでいる現在では、平面で認識していた世界を、地球という球面で考えていかなければならないことを、地図を使った作業をとおして学習する。 ・地球儀上の位置の示し方や時差の考え方を学び、時差の計算ができるようになる。 ・メルカトル図法、正積図法、正距方位図法で描かれたさまざまな地図を地図帳(アトラス)やインターネット等を使って集め、その特徴と欠点を理解し、用途に応じた適切な図法を選択できるようになる。 ・世界観の広がりとともに地図に描かれる内容が変化してきたことを理解し、現在見られる衛星画像や地理情報システムなど新しい地図表現の役割を理解する。 ・国家とは何かを考える。また、さまざまな情報手段を活用して世界の領土問題について調べ、レポートにとめる。 ・交通・通信の発達によって、生活、社会、産業などの関係がどのように変わってきたかを、教科書に掲載されているさまざまな主題図などを適切に活用しながら時系列で理解する。 ・人・「もの」・資本の移動により、国際貿易、国家間の結合などが活発化・複雑化していることを理解する。 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5 月	6	2章 世界の人々の生活 を取りまく地球的環境 ①さまざまな環境のなか で暮らす人々 ②世界的視野から見た地 形 ③さまざまな地形と生活 ④世界的視野から見た気 候 ⑤世界の気候と生活 ⑥世界の民族のさまざま な生活・文化 ⑦生活・文化を支える産 業の地域性	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活様式の差異を、地理的環境とのかかわりから理解する。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なっていることに気づき、現在の ような分布になった理由について、関心をもって学習する。 ・世界の自然環境を地形と気候の面から大きくとらえ、なぜ差異が生ま れるのか、人間生活にどのように影響しているのかについて理解する。 また、雨温図を作成する作業をとおして、世界を各気候区分に分類す る技術を養う。 ・さまざまな地形上で営まれている人々の生活とのかかわりについて 学習する。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営ま れているのかを学習する。 ・世界の人々がもつ民族性や言語、宗教を教科書に掲載されている写真・ 地図を適切に使用して理解し、現在発生している民族問題の本質を考 察する。 ・世界の農業・鉱工業について、発達過程を地理的環境との関連で理解 し、現在の分布状況や統計資料とあわせて考察する。 	○	○	○	○

週	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	12	④都市・居住問題ー健康で安全な生活環境	・居住・都市問題について、発展途上国ではスラム、先進国ではインナーシティ問題などが現れていることを理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		⑤資源・エネルギー問題ーせまられる有効な利用	・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。	○	○		○	
⑥地球環境問題ー21世紀は「環境の時代」	・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。	○	○		○			
⑦地球的課題への取り組みと国際協力	・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。	○	○		○			
3	1	第2編 生活圏の諸課題の地理的考察	・観光マップや所要時間マップ、バス路線図や古地図など、教科書に掲載されている地図に関心をもって参照し、また身近にあるさまざまな地図を収集して、地図を読むことの楽しさを理解する。	○	○	○		・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		1章 日常生活と結びついた地図	・観光マップとインターネット上の地図を比較して、描かれていることと描かれ技術ことを身につける。	○	○	○		
		①地図をもって生活しよう	・地理の言語としての地図、作成者の意図により取捨選択されている地図について、現在はGISや帰宅支援マップ、3次元地図、触地図などさまざまな種類の地図が発行されていることから、目的に応じた地図選択の重要性を理解する。			○	○	
②身近な地図を読みこなそう	・地形図の特徴について理解する。			○	○			
③地図表現について考えよう	・地形図を読む際の決まりごとを知識として身につけ、地形図を使って断面図を描き、また新旧地形図から地域の変化を読み取ることを学習する。			○	○			
④地形図を活用しよう	・地形図学習のまとめとして、身近な地域の地形図を入手し、読図した結果を現地に赴いて確認し、地形図の作り方について理解を深める。	○	○	○	○			
2	2	2章 自然環境と防災	・教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。			○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		①日本の自然と生活	・生活に影響を与えている気候、局地的な気候について理解し、気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し、グループで話し合う。	○	○	○		
		②自然災害に備えた暮らし	・生活に影響を与えている地形の特徴について理解するとともに、地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し、江戸時代以降、地形を改変して生活環境を変化させてきた人々の暮らしがどのようなものになっているか考察する。			○	○	
		・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、現象やこれまで受けてきた被害を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。	○	○		○		
		・自然災害に備えるためにはハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく減災できるよう、地域防災力を高めるために一人一人ができることを積極的に話し合う。	○	○	○			
		・自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり、市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして、最もおこりやすいと想定されている災害は何か、また避難時に障害となる場所はどこか、など、地域とそこに住む住民とともに減災に向けて意欲的に取り組む。	○	○	○			
		・作業を通して日本の気候と農業、気候と河川の関係性について学習する。また、ハザードマップを読み解き、災害時の行動をシミュレーションするDIGに取り組む作業を通して、日ごろから備えることの重要性を理解する。			○	○		
3	3	3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		①地域調査の方法	・地域調査の一環として、資料収集・現地調査を行い、的確な統計地図やグラフを作成して報告書をまとめ、発表する。	○	○	○		
		②水の恵みのまち「川北町」を考える	・地域調査を通して、河川は災害だけでなく豊かな生活にも恵みを与えていることに気づき、古くから人々は水の恵みを得るための工夫をこらし、災害をいなしながら生活してきたことを理解する。	○	○		○	

平成 29 年度 公民科「改訂版 高等学校 新現代社会」シラバス

校長	教頭	教頭

教科名	現代社会	教科名	公民科	学年	3年
単位数	3単位	科目担当者			

1 学習の到達目標

学習の到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

2 学習計画に関する指導順序と選択指導について※『高等学校学習指導要領解説 総則編』より

各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序	各教科・科目及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱について適切な工夫を加えるものとする。
学習指導要領で示されている内容を適切に選択して指導する場合の配慮事項	学校においては、特に必要がある場合には、「教育課程の基準」及び「教育課程の編成及び実施」に示す教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的な事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することができる。

3 科目全体の評価の観点趣旨

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

4 観点別学習状況の評価の数量化※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定 ※評価簿の作成を行う。

評価	内容	判定基準	得点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

5 各学期及び学年の評価方法 (各学期及び学年は、次の「学習計画及び評価方法」で記載する。)

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4 5 月	第1編 私たちの生きる社会 世界のさまざまな課題 1. 環境と私たちの生活 ①地球環境のいま(1) ②地球環境のいま(2) ③私たちの地球を守るために	<ul style="list-style-type: none"> これから学習していくさまざまな課題が世界には存在していることを理解する。 地球規模の環境問題にはどのようなものがあるかを、書籍やインターネットなどを用いて調べ、理解する。 さまざまな環境問題と人間の活動とのかかわりについて、教科書掲載の写真や地図を使いながら理解する。 環境問題への国際的取り組みを踏まえ、自然と共生するよりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考える。 地球の温暖化対策への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有限性について理解を深め、原子力発電の問題を例に、資源・エネルギー問題について多角的に考える。 資源・エネルギー問題について、書籍やインターネットなどを用いて調べ、理解する。 エネルギー政策の見直しとともに新エネルギーの現状について理解し、省エネルギーと循環型社会について考える。 資源・エネルギー問題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		3. 科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか考える。 医療の発達により、人類がはじめて直面する問題が生じていることを、具体的事例をあげて考える。 生命倫理をめぐる問題について、どのようなものがあるか新聞やインターネットなどで調べ、それらについて現状と課題とまとめる。 生命にかかわる課題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解させる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		4. 高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題	<ul style="list-style-type: none"> 高度情報社会とは何かについて理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について、新聞やインターネットなどを使って調べ、理解する。 高度情報社会で生きていくために必要な知識を身に着け課題についてどう取り組めばよいか考えることを通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	5	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成 私たちの一日と青年期 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③自立に向けて ④伝統や文化とのかかわり ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい	<ul style="list-style-type: none"> 人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え、青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考える。 伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 職業のもつ意味、社会に参加することの意義について書籍やインターネットで調べ、一人ひとりが社会づくりに参画していく必要があることを理解する。 生涯にわたって学習していくことの意義を考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	6	第2章 個人の尊重と法の支配 私たちの一生と法 ①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権と法の支配 ④世界の政治体制	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。 世界のおもな政治体制について教科書の図などを使って理解し、真の民主政治の実現と関連させて考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

2	6	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 私たちの町と政治 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利 ⑤自由に生きる権利 ⑥豊かに生きる権利 ⑦新しい人権 ⑧基本的人権と公共の福祉	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 平和主義をめぐって、どのような動きがあったのかを理解する。また、自衛隊をめぐるとの問題について理解する。 日米安保体制はどのような背景から生まれ、どう変化してきたのか理解する。 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について調べ、その解決策を考える。 社会権が私たちの生活をどのように変えたかを考える。また、新しい人権にはどのようなものがあるか理解する。 基本的人権と公共の福祉の関係について理解し、社会における望ましい解決策を、新聞などさまざまな情報手段を活用して調べ、話し合う。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
	9	⑨国会の運営と権限 ⑩内閣と行政の民主化 ⑪裁判所と人権保障 ⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> 議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会について理解する。 議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要か考える。 裁判所のパンフレットなどを入手して裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。また、憲法を守るための裁判所の権限について理解する。 地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について自分自身の問題として具体的に考える。 国会議員の選挙制度はどのようなしくみか、また、どのような課題があるのかを理解する。 国民が政治に参加する方法にはどのようなものがあるかささまざまな手段を使って調べ、住民にとって生活しやすい政治のために必要な行動を話し合う。 	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	10	第4章 国際政治の動向と日本の役割 国際政治の動向と私たち にできること ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際平和	<ul style="list-style-type: none"> 主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について理解する。 国連の成立、役割と課題について理解する。 第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。 核兵器を廃絶するためにどのような取り組みがおこなわれているか、また、国際平和のために何をしなければならぬか、さまざまな情報手段を活用して調べ、まとめる。 核兵器の問題についての知識を身につけ、それを廃絶するために何をしなければならぬかを理解する。 	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
2	10 11 月	⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生き方	<ul style="list-style-type: none"> 民族や宗教の対立による紛争にはどのようなものがあるか、人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。 日本の外交の基本方針を理解し、アジアの一員としての日本の役割について考える。 国際社会における日本の役割、国際社会の一員として何をすべきか考える。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
	11 12 月	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 私たちの町と経済 ①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤国民所得と私たちの生活 ⑥景気変動と物価の動き	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し、資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 企業の活動内容、企業の負っている社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。 市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 国民所得について、教科書に掲載されている図版を適切に使用し、理解する。 景気変動について理解し、経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考える。 	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
		学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法		

12	3	12 1 月	⑦財政のしくみと税金 ⑧日本の財政の課題 ⑨金融機関のはたらき ⑩戦後日本経済のあゆみ (1) ⑪戦後日本経済のあゆみ (2) ⑫技術革新の進展と産業 構造の変化 ⑬中小企業の現状と役割 ⑭食の安全とこれからの 日本の農業	<ul style="list-style-type: none"> 政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 財政にはどのような機能と役割が求められているか、日本の財政の課題は何かを理解する。 金融機関の果たしている役割、中央銀行の金融政策について理解する。 第二次世界大戦終結から現在まで、日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し、現在の日本経済の課題と新たな取り組みについて考える。 技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、新聞やインターネットを活用して身近な問題と関連させて考察する。 中小企業の現状と役割について理解する。 日本の農業政策の推移を理解し、これからの日本の農業、食料政策などの問題について考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
			⑮雇用と労働問題 ⑯労働環境の整備 ⑰公害の防止から環境保 全へ ⑱消費者問題と消費者主 権 ⑲社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 労働運動の展開と労働基本権について理解し、近年の雇用事情の変化について考える。 雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 公害の原因と、それに対する国・企業の責任について理解し、公害を防止するためにはどうすべきか考える。 消費者は契約についてどのような自覚が必要かを考え、消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。 日本の社会保障制度の特徴、少子高齢社会の課題について理解する。 消費者問題、日本の社会保障について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、調査した内容をまとめて話し合うなど、適切に表現する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
3	1	第6章 国際経済の動向 と日本の役割 国際経済の動向と私たち にできること ①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域の経済統合 ⑥発展途上国の経済と南 北問題 ⑦国際社会のこれから	<ul style="list-style-type: none"> 自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。 自由貿易推進のために国際的な協調体制がとられてきた経緯を理解し、国際収支の変化、為替相場の変動が経済に及ぼす影響について理解する。 貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考え、身近な事例をもとにレポートを作成するなど、適切に表現する。 日本の貿易やアメリカ、アジアなどの貿易について理解し、貿易の拡大とそれにとまなう貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 国際経済機構や地域の経済統合にはどのようなものがあるか理解する。 南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解し、南北問題解決のために日本は何をすべきか考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
3	2	第7章 民主社会に生きる 倫理 私たちの悩みと倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見ら れる考え方 ④近代市民社会から大衆 社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向 けて	<ul style="list-style-type: none"> 哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について、具体的事例をあげて考察する。 人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため、図版や原典資料を適切に使用する。 平等な社会の実現には、偏見を取りのぞき、主体的に努力することが求められていることを理解する。 差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	
3	3	第3編 ともに生きる社会 をめざして ケーススタディ ①社会保障と消費税 ②クジラは野生保護動物 か、水産資源か ③人口問題と私たちの未来	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、政治課題としてよく取り上げられる消費税について考えたり、捕鯨問題について考えたり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 調べた内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査 	
		月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法

